

出張報告

報告日 令和6年 8月30日

会 派 名	柏盛クラブ
報告者氏名	重野正毅
種 別	☐ 調査研究（ ☐ 行政視察） ☒ 研修会 ☐ 要請・陳情 ☐ 各種会議
用 務	自治体の防災・減災マネジメント（基礎編）
日 時	令和6年8月16日（金） ～
場 所 （会場）	映像視聴で研修
調査項目等	・自治体、議会の防災マネジメント
概 要	・大きな災害で一番に行うことは道路を開けること。 ・「重ねるハザードマップ」（ネットで検索できる）で災害危険度を調べる。 ・防災で一番の障壁は「正常化の偏見」。 ・東日本大震災では支援者も多く亡くなっている。自治体職員288人。任務放棄の基準を明確にしないと使命感が強い人ほど亡くなるケースが多い。 ・災害後には要介護者認定数が増加する。理由は、仮設住宅など避難先の生活の影響による心身の衰え。東日本大震災後、福島県で38%増、富岡町では約4倍になった。フレイルだった人が要介護者になりそれによって自治体の財政が危うくなる。 ・災害後の在宅高齢者等の支援が災害関連死を少なくするためには重要。熊本地震では、災害関連死の37.2%の人が発災後、発災前と同じ居場所に滞在した人であった。 ・災害時の議会・議員の使命。 「住民の命と尊厳を守る」「市町村当局と協働し、国等や国民に働きかける」 「災害時でも地方自治と民主主義を守る」。 ・災害時議会・議員活動の考え方。 議会が監視機能と政策提案機能を発揮すると災害対応全体が遅滞する。 議会と執行機関が協力すると混乱は少ない。 →応急対策時は議員は地域支援。復興時はまちの未来形成に向けての議会審議。 ・議会が正常化の偏見を破ろう。 危機時には危機管理担当だけでなく全庁的に対応する必要がある。行政職員

	の危機管理能力を高めるには、議会が質疑提案等を通じて、重要性を訴え続ける必要あり、防災以外の常任委員会で各部署の防災の質疑をする。
所 感 等	【重野正毅】 防災においてよく言われているのが「正常化バイアス」についてである。何の根拠もなく、自分は大丈夫だと考えてしまうことだ。この考え方の払しょくこそが素早い避難につながる。そのための日頃からの訓練の大切さを痛感した。 特に講師の訴える福祉避難所の在り方について、柏崎でもただ避難するだけでなく要支援者の方々の避難所として適切なところはどこなのか、その避難所運営は専門の施設の方に任せっきりでいいのか、などを準備し協議しておく必要を感じた。今回の1月1日の能登半島地震の時には柏崎でも津波の発生警報が出された。その時の福祉関係の避難についてはそれぞれの施設のBCPに任せるだけでよかったのか、在宅の要介護者についてはどうだったのかも検証するべきだったと考える。 また、災害発生時の議会・議員の在り方についても基本的なところを学べた。柏崎では実際に災害対策支援本部が設置されるなどの経験があり、自覚している議員も少なくないが、年1回は訓練を通して確認していく必要があると思う。

会 派 名	柏盛クラブ
報告者氏名	重野正毅
種 別	☐ 調査研究（ ☐ 行政視察） ☒ 研修会 ☐ 要請・陳情 ☐ 各種会議
用 務	実例から見る防災対策における議会・議員の役割（実践編）
日 時	令和6年8月16日（金） ～
場 所 （会場）	映像視聴で研修
調査項目等	・地域防災における議会・議員の役割
概 要	・地震は「耐震化」と「家具転倒防止」。津波のないところでは、耐震化で地震被害はなくなるといい。 ・防災の投資として最も効率的なことが「耐震化」。災害対策と考えず、投資と考える。 ・避難所での一番の苦労がトイレ問題。 ・災害時のトップがなすべきこと。 大規模災害発生時の意思決定の困難さは想像を絶する。平時の訓練と備えがなければ危機への対処はほとんど失敗する。何よりもまず、トップとして判断を早くすること。命を守るということを最優先し、避難勧告等を躊躇してはならない。トップはマスコミ等を通じて住民の前に姿を見せ被災者を励ます。忙しくても視察を嫌がらず受け入れる。職員を意識的に休ませる。 ・ある被災経験自治体職員の振り返り。 議員の要望が多く行政の対応能力を超えている。なぜ議員要望を優先しなければならないのか。議員からまだかまだかの声がある。 ・災害時の議会。議員の役割。 避難所の運営支援、在宅避難者情報のニーズ把握などできることはなんでも。やってはならないこと（ネガティブリスト）を規定するのも効果的。大声を出さない、職員に指示しない、市や職員の悪口を言わない。 情報収集をし、窓口を議長に一元化する。 議員が視察を受け入れることで、執行機関の負担を軽減しつつ、外部支援の確保を図るのはどうか。 議会・議員の政治力を生かして国や関係機関に要望し、早期に対策を実施させる。 ・オンライン議会を開催できるよう条例を改正する。 委員会や本会議での扱いをどうするか、法的な扱いなど環境整備する。 ・人を健康で幸福にするのか「良い人間関係」に尽きる。

所 感 等	【重野正毅】 災害発生時の議会や議員の在り方について、これまでの自分の経験からはそれとなく理解していたつもりだが、他の自治体の在り方を学んだり、これからのオンラインの扱いをどうするのかを知るにつれ、今まで以上に議会として検討しておく必要を痛感した。 今年の能登半島地震直後に七尾市を訪れたことを考えながら聞いていた。トップとして、あるいは議会・議員として、あのような状況の時にどうすべきだったのか、各議員の持つネットワークの使い方、被災者と行政との橋渡しの在り方など、他人事でない感じを強く持った。 議会・議員としてだけでなく、市民の一人として、日頃からの近所づきあい、自助・共助の間にある互助の必要性を広く市民に分かってもらうことが、災害発生後の適切な避難行動につながることを伝えられるようにした。
--------------	---